



嵐の総会シーズンが、先週末の協同総研・伊丹労協でようやく終わった。今期は、社会の中の協同労働やワーカーズコープという位置づけと自覚を格段に高め、2015年4月を焦点に、多くの社会的・地域的困難に挑戦する決意が迫られることになった。

労協連・センター事業団の総会・総代会は、仙台で開いたこともあり、震災復興の中で膨らんでいる矛盾と困難をもう一度共有し、東北の復興を新しい日本の魁としていく場となった。また、今回の議案の中には、「原則改定案」と「公共政策提言案」という、極めて重要な提案が含まれていた。

「原則改定案」は、これから1年の討議・修正と全組合員投票を経て、次期総会で正式決定の予定である。改定の中心的な内容は、「社会連帯経営」を明確に位置づけることにある。ぜひ研究所としても、改定議論に積極的関与をお願いしたい。また、「公共政策提言案」は年末まで議論を広げながら、年明けには最終提言にまとめ上げていく予定である。いまの日本は、様々な人々の「自立支援」を制度化しなければならない社会、様々な地域が経済成長至上主義とTPP参加によって存続そのものの危機を迎える社会にある。そこで、問われている根本課題は、この社会の「公共」とは何かを明らかにし、その推進・創造主体に市民を位置づけることである。こうした問題意識から、公共の

原則を確立し、まず問題が拡大している「指定管理者制度の改革」に焦点を当てた案となっている。ここでも、研究所の方々の関わりが重要になっており、重ねてコミット頂くよう、お願いしたい。

総会・総代会を終え、休む間もなく「地域労協会議」「労協連理事会」「センター事業団理事会合宿」が立て続けに開催された。目線はすでに、2015年4月に向いている。この1年半余のやるべき課題も明らかになっている。「よい仕事と仕事おこし」「社会連帯経営」「真の公共の創造」に収斂される課題に対して、いつ・どこで・誰と・どう取り組み・どんな成果を上げるのか、を物語として描く必要がある。2015年4月に向けた発展のプロセスのシナリオづくりだ。豊かな想像力が、感動の創造を生むシナリオライターにリーダーが挑戦し、実践しなければならない。

このシナリオ・物語は、「まちづくり」の物語そのものである。そして、ワーカーズコープのものだけでなく、協同労働がつなぐ全市民のまちづくり物語として描こうとする段階を迎えている。物語には、紆余曲折の中に貫かれる筋が必要である。一本筋の通ったまちづくりとは何なのか。未来を志向する上で、その答えは見えてきた。既に始まっている未来を見極める、協同労働者の筋金入りの眼力と洞察力が試される。